

報道記録 (2012. 5. 15～2014. 3. 3)

Kビジョン	2014年3月3日～	「あなたに会いたい」(橋本暢公) 放映
Kビジョン	2014年3月2日～	「みんなのちよび」で楽習フェスタ放映
Kビジョン	2014年2月23日～	「みんなのちよび」でNPO 記念交流会放映
日刊 新周南	2014年2月25日	NPO 法人認証祝って
スーパーネット	2014年1月31日	活動報告(表彰式)
「ほっぷ」	2014年1月31日	下松べんけい号への年賀状コンクール
日刊 新周南	2014年1月28日	べんけい号への年賀状表彰式
読売新聞	2014年1月27日	弁慶号への年賀状 下松で表彰式
日刊 新周南	2014年1月24日	市長賞にはらださん べんけい号への年賀状コンクール
Kビジョン	2014年1月2日～	「テレビ年賀状」で放映(再放送あり)
エフエム周南	2014年1月2日	「年賀状募集」「今年の抱負」を放送
Kビジョン	2013年12月22日	「みんなの日曜日」で12/22 行事の放映(再放送あり)
読売新聞	2013年12月18日	「弁慶号」に年賀状を出そう
日刊 新周南	2013年12月17日	SL 弁慶号へ年賀状を 愛する会がコンクール
中国新聞	2013年12月14日	べんけい号へ年賀状を書こう
日刊 新周南	2013年11月19日	下松「しゅうなん元気もんフェスタ」
日刊 新周南	2013年11月14日	17日「しゅうなん元気もんフェスタ」
日刊 新周南	2013年10月24日	「SL べんけい号スケッチ大会」作品展
日刊 新周南	2013年10月1日	「SL べんけい号まつり」好評
読売新聞	2013年10月1日	「下工弁慶号」の模型づくり
NHK	2013年9月27日	「カフェのんた・おでかけ情報」放映 11:45～
日刊 新周南	2013年9月27日	イベント「SL べんけい号まつり」
朝日新聞	2013年9月23日	掲示板「SL べんけい号まつり」
Kビジョン	2013年7月1日	タウンニュースで「NPO 法人設立総会」放映
日刊 新周南	2013年7月1日	「下工弁慶号」の活用へ法人化
読売新聞	2013年6月30日	「弁慶号」保存会 NPO 移行可決
読売新聞	2013年6月20日	「弁慶号」保存会をNPOに
tys	2013年4月19日	「スーパー編集局」から取材・収録
日刊 新周南	2013年4月1日	「マツダ財団」・県内7件に助成
日刊 新周南	2013年3月27日	下工弁慶号スケッチ展
朝日新聞	2013年3月7日	掲示板
日刊 新周南	2013年3月6日	弁慶号をスケッチしよう!
日刊 新周南	2013年1月22日	”106歳”下工弁慶号に年賀状
日刊 新周南	2012年11月29日	自分の絵を見に来た園児たち
読売新聞	2012年11月18日	SL「下工弁慶号」市民の交流の場に
市広報「潮騒」	2012年9月15日	ぶちええ仲間「くだまつ弁慶号を愛する会」
日刊 新周南	2012年7月20日	「星の子ネット」助成決まる
日刊 新周南	2012年7月11日	下松べんけい号を愛する会紹介
NHK	2012年6月21日	「あいたい」(旅番組)の収録
Kビジョン	7月2日～8日	「あなたに会いたい」放映
読売新聞	2012年5月26日	弁慶号ミニSL製作へ
毎日新聞	2012年5月26日	走れSL 弁慶号
毎日新聞	2012年5月25日	走れSL 弁慶
日刊 新周南	2012年5月15日	SLの創作絵本募集へ

NPO法人認証祝って

下松べんけい号を愛する会 交流会で復元に意欲

●下松●



交流会に出席した人たち

下松市役所のグリーンプラザに展示されている小型蒸気機関車、下工弁慶号を生かしたまちづくり活動に取り組んでいる「下松べんけい号を愛する会」(橋本暢公理事長)

のNPO法人認証披露交流会が二十二日、ほしらんどくたまで理事や役員など二十九人が出席して祝った。

下工弁慶号は長く下松工高で実習に使われ、戦後、老朽化で走れなくなっていたが、一九八一年(S56)に同校の六十周年記念事業で修復、公開運転され、九六年(日8)に市に寄贈された。同会は四年ほど前からこの機

関車の復元を目標に弁慶号にちなんだ年賀状の募集やスケッチ大会などを開いている。

NPO法人に認証されたのは一月六日で、橋本理事長は交流会で「復元には技術だけでなく資金が必要で、社会から信用される必要があった」と話し、今後、下工弁慶号による社会教育やまちづくり、子育て支援に取り組みと述べた。米賣の中

島進新周南新聞社社長、長尾一郎Kレジョン社長、市教委の原田幸雄生涯学習課長もあいさつして支援を約束した。

また前会長の六反弘道さんや復元した当時の下松工高校長の竹中清さん、修復に尽力した同校教諭の故市川五郎さん、同校の同窓会組織で、資料などを保存してきた下松工業会に感謝状を贈った。



スターピアくだま
つ（下松市中央町）ロ
ビーでは、2月6日
（木）まで「第2回下
松べんけい号への年
賀状コンクール」の
作品展が開催されて

います。「下松べんけ
い号を愛する会」の
主催で、今年で10
7歳を迎える蒸気機
関車「下松べんけい
号」への「いつまでも
元気でね」という気
持ちを込めた年賀状
を募集。寄せられた
年賀状から審査によ
り決定した受賞作品
を含む、367点の
全応募作品を展示し
ています。観覧時間
は9時から22時（水
曜は17時）までで、観

覧無料。

日本の貴重な近代
化産業遺産として、
下松市役所南側広場
の展示格納庫に保管
されている「下松べ
んけい号」。走行はで
きませんが、これか
らも元気な姿を子ど
も達に見せ続けて欲
しいものです。

■問い合わせ
下松べんけい号を愛
する会事務局／栗田
080-
19465118

丁寧、綿密に描かれた36点

● 下松 ●

べんけい号への年賀状表彰式

下松市役所のグリーンプラザに展示されている蒸気機関車、下工弁慶号を生かしたまちづくりに取り組んでいる下松べんけい号を受賞する会（橋本暢公理事長）のべんけい

号への年賀状コンクール表彰式が二十六日、スタート。フロアで開かれ、ちぎり絵で表現して市長賞に選ばれた久保小四

ら最優秀賞八人、優秀賞二十八人を表彰した。コンクールには市内の小中学生や幼稚園、保育園を中心にした三百六十七通の応募があり、入賞作品はデザイナーなどの選考

委員会（重岡孝信委員長、七人）が発想力や色彩、表現力などを基準に選んだ。表彰式では橋本理事長が「これからも続けてい

い」と呼びかけ、どの作品も丁寧に描かれていたという重岡委員長の講評が紹介された。作品はこの日から二月六日まで同館ロビーに展示している。



表彰される原田さん



楽しい作品が並ぶロビー

下松市が所有する蒸気機関車「下工弁慶号」の保存や活用に取り組んでいるNPO法人「下松べんけい号を愛する会」は26日、弁慶号に宛てた年賀状コンクールの表彰式を同市のスターピアくたまつで行った。



弁慶号への年賀状 下松で表彰式

下工弁慶号への年賀状が並ぶ会場

「線路を走って」といったメッセージも目立った。入賞は36点で、このうち最優秀賞には下松市長賞の原田涼佳さん(10)(久保小4年)、市議会議長賞の吉野千尋さん(5)(妹背幼稚園)、市教育長賞の光谷真都さん(8)(下松小2年)ら8人の作品が選ばれた。

全応募作品は2月6日まで、スターピアのロビーで展示されている。その後、地域交流センター、ほしらんどくたまつでも展示する。

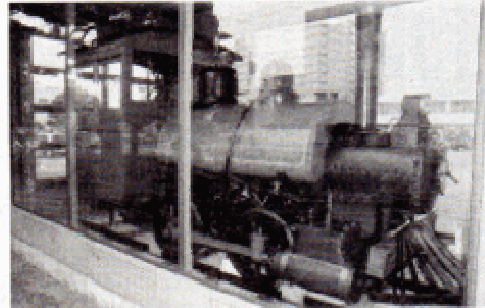
「弁慶号」に年賀状出そう

下松市の「下松べんけい号を愛する会」は、市が所有する蒸気機関車(SL)「下工弁慶号」に宛てた年賀状コンクールの作品を募集している。

弁慶号は1907年に製造。来年、「107歳」となり、現存する国産SLとしては3番目に古い。現在は同市役所前の広場に展示されている。

年賀状は市内外、年齢に関係なく応募できる。来年1月10日(消印有効)までに〒744-8799 下松市新川1-4の5下松郵便局留め「下松べんけい号年賀状係」に郵送する。市内の子どもは、小学校や幼稚園、保育園などのポスターに貼り付けている「応募袋」に入れてもよい。

下松・愛する会が作品募集



下松市役所前の広場に展示されている「下工弁慶号」

選考委員会で、最優秀賞3~5点、優秀賞20~30点を選ぶ。応募作品は1月中旬から、市内のほしらんどくだまつ(中央公民館)、スターピアくだまつなどで展示する。

スケッチなどに活用してもらうため、今月22日午前10時~午後4時、弁慶号を保管庫から出して展示する。

問い合わせは愛する会(080-1946-5118)へ。

●下松● S L 弁慶号へ年賀状を 愛する会がコンクール

誕生から来年で百七年になる下松市の市役所のグリーンプラザに展示されている蒸気機関車「下工弁慶号」を年賀状で勇気づけようと下松べんけい号を愛する会が「百七

歳おめでとう！下松べんけい号への年賀状コンクール」を聞くことになり、一月十日まで作品を募集している。このコンクールは昨年

に続いて二回目だが、昨年は特定の小学校の児童、幼稚園児から募集しており、大人まで含めて広く募集するのは初めて。下工弁慶号は現役で運

転されたあと長く下松工高で実習機材として使われ、その後、市に寄贈された。年賀状のテーマは「元気で頑張れ、下松べんけい号！（べんけい号は、今は走行できないけれど、子どもたちの笑顔だいすきです）」。

作品は市販の年賀はがきや応募用紙などはがきサイズの用紙なら何でもよく、絵や文字で描く。一月中旬に市長賞など最優秀賞を三〜五点と優秀賞約三十点を選び、二十六日に表彰式をする。作品は下旬からほしらんどくだまつ、スターピアくだまつ、市域交流センターに展示する。

問い合わせは事務局長の栗田一郎さん（080・1946・5118）へ。

作品は〒744-8799・下松市新川一丁目四一五、下松郵便局留め「下松べんけい号年賀状係」へ送る。

へんけい号へ 年賀状書こう

下松の市民募る

市役所広場に展示

下松市大手町の市役所南側広場に展示されている蒸気機関車「下松へんけい号」への年賀状を、市内の住民らでつくる「下松へんけい号を愛する会」が募

集している。来年1月1月下旬から市内で展
10日まで。入選作品は示す。

同会によると、蒸気
機関車は1907年に

製造され、現存する国
産機関車としては3番
目に古いという。応募
に年齢制限はなく、同
会の栗田一郎事務局長
は「107歳を迎える
へんけい号を応援する
年賀状を待っていま
す」と話している。

応募は、〒744-
8799下松市新川1
丁目4の5、下松郵便
局留め「下松へんけい
号年賀状係」まで郵送
するか、市内の学校や
公民館などにある応募
袋に入れる。栗田さん
☎080-(1946)
5118。

にぎわう会場



市民活動の40団体一堂に 下松・しゅうなん元気もの交流フェスタ

ースが並び、健康やスポーツ、福祉、ボランティア、ガールスカウトなどそれぞれの活動を説明するパネルや各団体が作っている布小物や服、漬物などの販売も人気を集めていた。

このほか屋外では中山間地域の加工品の販売、一階通路ではSL模型の展示走行、二階交流室では紙芝居や腹話術、朗読などの「子ども劇場」も展開され、さまざまなジャンルの団体が活発に交流を楽しんでいた。

第八回周南地域市民活動団体等交流会「しゅうなん元気もの交流フェスタ」が十七日、下松市大町のほしらんどくたまで開かれ、周南三市の市民活動団体や中山間地活動団体など四十団体がパネルなどを並べて活動を紹介し、特産品販売、子ども向けの紙芝居なども繰り広げた。下松、光、周南市、県周南県民局で作る実行委員会主催。サルビアホールいっぱい各団体のブ

中山間地、市民団体が発表

農産物や子ども劇場も

17日・なんげん元気ものフェスタ

● 下松 ●

周南地域の市民活動団体などの交流会「しゅうなん元気もの交流フェスタ」が十七日午前十時から下松市大手町のほしらんどくだまつで開かれ、周南三市の市民活動団体、中山間地域活動団体など四十団体がパネル展などの活動報告、農産物販売などをする。

下松、光、周南市、県周南県民局で作る実行委員会の主催で八回目。当日はサルビアホールや屋外などで各団体がブースを出し、二階交流室では紙芝居、人形劇やちよる、ピエロのPちゃん、笑顔の殿様も登場する

「子ども劇場」もある。午後三時までで、最後に餅まきがある。問い合わせは同局(0834・336401)へ。参加団体は次の通り。

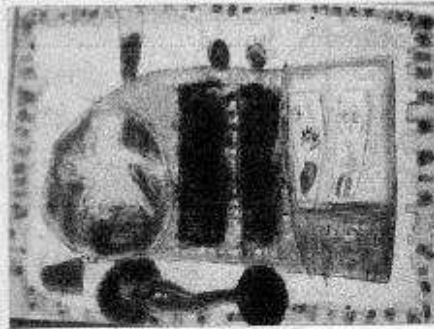
下松⇩下松べんけい号を受する会、傾聴聴話会、朗読Junな心の会、まつぼっくりの会、ヤッカ&アルコイリスの会、国際医療協力山口の会、くだまつ絆星スポーツクラブ、えくぼの会、腹話術小鳩会、箏友会マ光⇩光人形劇協議会、生命の貯蓄体操普及会ひかり進支部、虹のかけ橋、劇団「たね蒔(ま)く人たち」、ひかり市民活動協議会、光市情報学習推進協議会、光紙芝居、光けんじの学校、シニアネット

ト光、ひかりエコメイ
ト、ガールスカウト県第
17団マ周南⇩日本の伝統
の美和裁教室、シヤンテ
イ山口、ひだまりの会、
こども未来21、周南地区
日中友好協会、ACT
SAIKYO、周南未来
会議、県アクティブシニア
ア協会、やまぐちパフォ
ーマンスネットワーク、

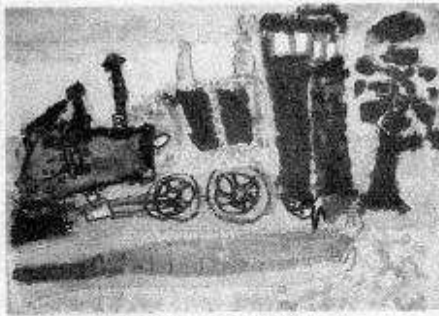
周南ふれんZOOマ中山
間地域⇩農事組合法人洪
川農産加工部、大潮田舎
の店、須金ひまわり会、
せせらぎゆかりパークマ
行政⇩周南消費者協会、
周南市市民活動支援センタ
ー、下松市食生活改善推
進協議会、県周南健康福
祉センター、やまぐち県
民活動支援センター

●下松●
最優秀賞に5人、優秀賞に15人
SSLべんけい号スケッチ大会
 27日まで、ほしらんどくだまつで作品展

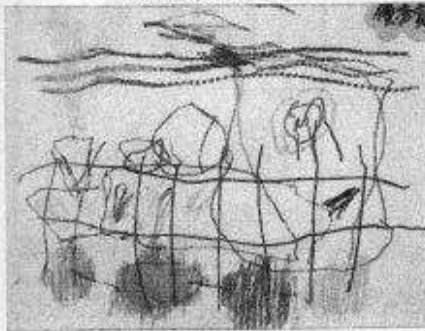
下松市役所前広場に展
 示されている蒸気機関車
 「下工弁慶号」のスケッチり、最優秀賞に生野屋西
 子大会の入賞作品が決ま
 の石田たいじ君（3）、東



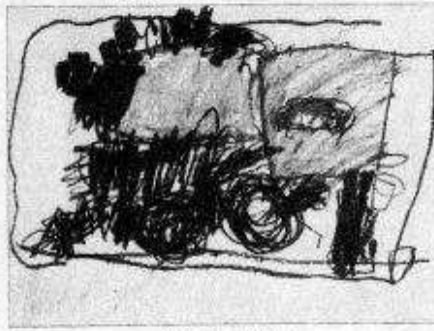
はやかわ君の作品



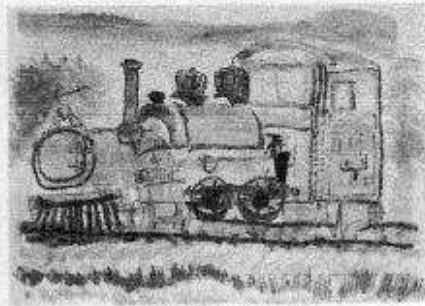
長命そうた君の作品



石田君の作品



牧山君の作品



長命かほさんの作品

柳の牧山たろう君（5）、
 西柳の長命そうた君
 （6）、長命かほさん
 （9）、中央保育園のはや
 かわよしはる君（6）が
 選ばれた。応募のあった
 六十一点は二十七日まで
 ほしらんどくだまつに展
 示している。

（重岡孝信委員長）で審
 査し、最優秀賞のほか優
 秀賞に十五点を選んだ。
 二十六日午後二時から
 展示会場で入賞した二十
 人を表彰する。

作品は十一月十二日か
 ら十九日までスターピア
 くだまつマ十二月一日か
 ら二十七日まで市地域交
 流センターでも展示す
 る。優秀賞は次の通り。

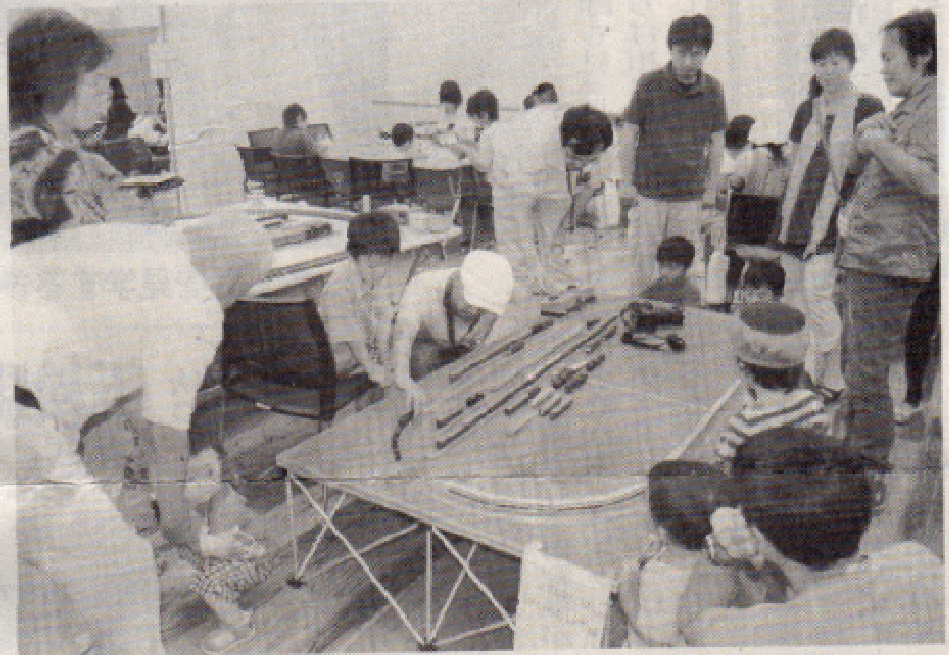
大会は弁慶
 号の保存とP
 R活動に取り
 組む下松べん
 けい号を愛す
 る会（橋本暢
 公代表）が九
 月二十九日に
 同会場などで
 開いたSSLべ
 んけい号まつ
 りの中で開
 き、幼児から
 大人までが参
 加した。作品
 は選考委員会

（敬称略）
 末原あつと（末武下）
 河井しゅうき（西豊井）
 光井佳奈、光井ひな（潮
 音町）工藤やまと（河内）
 後藤よしとも、後藤美穂
 子（桜町）いなますしの
 か、かねひろりん、しお
 ただいき、あおきいつ
 た、みたらいふうか、の
 だけんた、くらもとゆ
 め、なかたちあり（中央
 保育園）

スケッチ大会や鉄道模型も

● 下松 ●

S Lべんけい号まつり好評



人気を集めた鉄道模型

下松市の下松べんけい号を愛する会（橋本暢公理事長）のSLべんけい号まつり（新周南新聞社など後援）が九月二十九日、下工弁慶号が展示されている市役所のグリーンプラザとほしらんどくだまつで開かれ、保管庫から出された下工弁慶号を描くスケッチ大会や、ほしらんどくだまつでは牛乳パックを使ったミニSLづくり、鉄道模型の運転、紙芝居、手品などがあったとくさんの子どもとその家族らでにぎわった。

下工弁慶号は一九〇七年（M40）に製造された蒸気機関車。徳山海軍煉炭製造所で使われたあと三四年（S9）に下松工業学校の前身、下松工業学校に移され、戦後は風雨に

さらされるままの時期もあったが、下松工高の教員、生徒の手で走れるまでに修復された。同会はこの機関車のミニモデルの製作などを通じてまちづくりと青少年育成を目指して活動している。

スケッチ大会には小学生ら三十人が参加。ほしらんどくだまつでも子どもたちが鉄道模型に熱中していた。会場では周南市の障害者施設、なべづる園で製作した白い陶製の「ぬる貯金箱下松べんけい号」も販売した。

事務局長の栗田一郎さんは「これからは年二回、まつりを開きたい」と話し、次回は来年三月を予定している。会員も募集中で、問い合わせは栗田さん（08333・434250）へ。

下工弁慶号の模型づくり

下松 保存テーマに紙芝居



弁慶号の模型を作る女の子ら

下松市が所有する蒸気機関車(SL)「下工弁慶号」の保存や活用に取り組む市民グループ「下松べんけい号を愛する会」のSLべんけい号まつりが9月29日、同市役所芝生広場と、ほし

らんどくたまつで開かれた。活用運動の一つとして、子育て支援も行おうと、愛する会が企画。芝生広場では、いつもはガラス張りの建物に入られている弁慶

号が外に出され、スケッチ大会やパザールなどが行われた。

ほしらんどくたまつでは、弁慶号の保存運動をテーマにした紙芝居、牛乳パックを使った模型づくりなどがあり、こちらも多くの子供たちが楽しんだ。

愛する会などによると、下工弁慶号は、1907年に東京の石川島造船所(現IHI)が米国の小型機関車をモデルに製造した。現存する国産SLの中で3番目に古いという。周南市の旧海軍徳山練炭製造所で運搬車として使われた後、34年に下松工業学校(現下松工高)に実習用として払い下げられ、96年10月に市に寄贈された。

NHK TV (山口) 2013年9月27日(金曜日) 11時45から
「カフェのんた・おでかけ情報」で「SL べんけい号まつり・2013秋」のご案内 放映

放映後の愛する会のメンバー



当日の情報は、NHK 山口放送局ホームページにも掲載されています

「カフェのんた」・おでかけ情報

こちらから、どうぞ



スケッチ大会やSL工作

●下松・29日●

SLべんけい号まつり

下松市の下松べんけい号を愛する会（植本暢公代表）の「SLべんけい号まつり2013」（新周南新聞社など後援）が二十九日午前十時から市役所の蒸気機関車の下工弁魔号が展示されているグリーンプラザやほしらんどくだまつで開かれ、スケッチ大会やSL工作、紙芝居の読み聞かせなど多彩な催しがある。

イ
ブ
ン
ト

昨年は二日間のまつりを開いたが、今年は春と秋に分けた。グリーンプラザでは保管庫の外に出された下工弁魔号を描くスケッチ大会や、萩名物の蒸気船の形をした「蒸気まんじゅう」の実演販売、高杉晋作を描いた紙芝居の上演などがある。ほしらんどくだまつでは牛乳パックを使ったSL工作、手品、バルーン

アート、「走れべんけい号」の紙芝居や絵本の読み聞かせ、下工弁魔号の過去の映像の上映などがあるほか、関連グッズの販売やバザーなどもあ

る。スケッチ大会は誰でも参加でき、午後三時まで

参加を受け付ける。応募のあった作品は審査して後日、表彰式を開き、スタービアクだまつやほしらんどくだまつなどに展示する。

問い合わせは事務局の栗田さん（080・1946・5118）へ。

SLべんけい号まつり 2013秋 29日10～16時、下松市
大手町3丁目の下松市役所の芝
生広場「グリーンプラザ」（第
1会場）と下松市大手町2丁目
の「ほしらんど くだまつ」
（第2会場）。第1会場ではス
ケッチ大会（絵を描く道具や画
板は持参）や萩名物の蒸気船ま
んじゅうの実演販売など。第2
会場ではふるさとの民話や「は
しれべんけい号」の紙芝居な
ど。下松べんけい号を愛する会
事務局長の栗田さん（080・
1946・5118）。

● 下松 ● 下工弁慶号の活用へ法人化

● 下松 ● 下松べんけい号を愛する会 秋にはまつりも

下松市の下松べんけい号を愛する会はNPO法人として活動することになり、六月十九日、ほしらんどくたまつ会議室で法人設立総会を開き、定款などを決めて橋本暢公理事長ら役員を選出、市役所のグリーン広場に展示されている蒸気機関車の下工弁慶号を知ってもらうためスケッチ大会や年賀状の募集、九月にSしべんけい号まつり(仮称)の開催などの事業計画を決めた。

下工弁慶号は、九十七年(M40)に製造されて徳山煉炭製造所などで使われたあと、三四年(S9)に下松工業学校に実習機

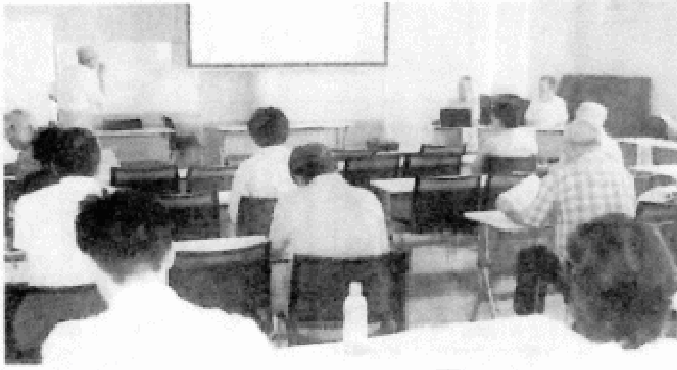
材として払い下げられ、スクラップにされるところを教職員が熱意で修復し、同窓会の下松工業会を経て市に寄贈された。

同会はこの機関車を「下松べんけい号」として保存、活用し、また復元モデル機の製作などを通じてまちづくりや子どもへの教育に役立てようとする。二〇一二年(廿三)四月から任意団体として活動を続けてきた。

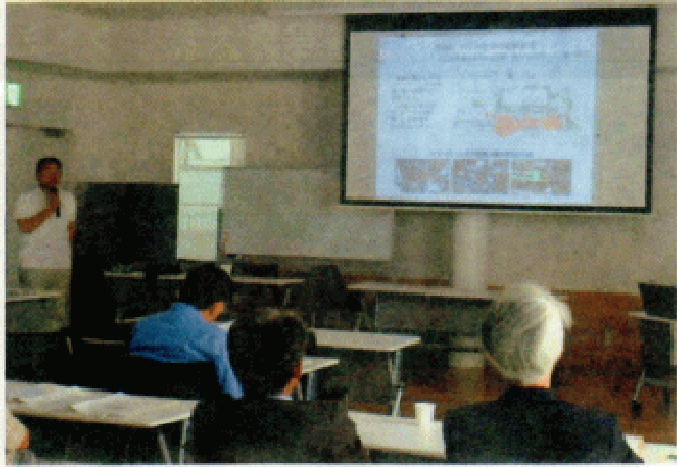
現在の会員は個人百九十八人と法人八社。総会にはこのうち、十五人が出席。来賓の浅本正孝市議会議長、原田幸雄市教育委員、生涯学習振興課長は文化財としても評価されてい

るこの機関車の活動のため、できるだけ協力した。設立総会では設立趣意書、定款を承認し、今年度と来年度の事業計画も決めた。役員は栗田一郎さんが副理事長、兼事務局長、副理事長に大木孝行さんと理事十一人、監事に鎌田泰久さんを選び、これまで会長を務めていた

設立総会で話し合う会員たち



「弁慶号」保存会 NPO 移行可決



NPO法人への移行を決めた総会

出。NPO法人化の議案を満場一致で可決し、同法人の設立総会に切り替えた。「子どもの健全育成、まちづくり、社会教育を推進する」とする設立趣意書が読み上げられ、定款や事業計画などとともに承認された。

理事長に選出された橋本嶋公さんは「弁慶号は市民の財産。NPO法人化を機に、さらに活動の幅を広げていきたい」と話した。

下松市にある蒸気機関車（SL）「下工弁慶号」の保存や活用に取り組み「下松べんけい号を愛する会」の総会が29日、同市の中央公民館で開かれ、NPO法人への移行を満場一致で決めた。会によると、7月に県に申請し、秋にも正式認証される見通し。

愛する会は2011年4月、市民有志の任意団体として設立。現在は約200の個人・法人が加盟している。活動が盛んになるのに伴い、計画中の「ミニSL」の製作費などの資金を集め、会員をさらに増やして長く活動するため、会の信用力を高める必要性が浮上。県が認証し、会計をチェックするNPO法人に移行することにした。

総会には、約30人が出席し、11人が委任状を提

「弁慶号」保存会をNPOに

下松、29日に設立を提案

下松市が所有する蒸気機関車（SL）「下工弁慶号」の保存や活用に取り組み市民グループ「下松べんけい号を愛する会」が、NPO法人への移行を計画している。さらに多くの会員を集め、計画する「ミニSL」製作の早期実現などが目的。29日の定時総会で可決されれば、その場で設立総会を開く。

（津江秀晃）



信用力高め「ミニSL」資金集める

下松市役所前広場に展示されている下工弁慶号は、現存する国産SLの中で3番目に古いという。

愛する会は2011年4月に市民有志で設立。当初、会員は10人に満たなかったが、活動に賛同する人が続々と入会し、2年あまりで約180人に増えた。

ミニSLは12・5センチ幅の線路を走り、大人10人、子ども5人ほどが乗れる6分の1スケール。本体やレールなどの製作費として300万円が必要だが、まだ集まっていない。

そこで、地方の鉄道会社が、住民の支援を受けるために行っている「枕木オーナー」制度をヒントに、ミニSLのレールの枕木に寄付者の名前を入れること

下工弁慶号（左）の保存活動に取り組む「愛する会」のメンバーら

を検討。溶接や部品作りなどの作業を会員に体験してもらおうという構想もある。

こうしたアイデアを実現するには、県が認証して会計をチェックするNPO法人になり、信用力を高めてさらに会員を増やすことが必要と判断。定時総会に提案することを決めた。事務所は市内に置くが、有給の職員は雇わないという。

愛する会の栗田一郎事務局長は「弁慶号を末永く保存し、子どもたちに伝えていくため、継続的な活動ができる環境を整えたい」と話している。

愛する会などによると、弁慶号は1907年に東京の石川島造船所（現IHI）が米国の小型機関車をモデルに製造。周南市の旧海軍徳山練炭製造所で運搬車として使われた。34年に下松工業学校（現下松工業）に実習用に払い下げられ、96年10月に市に寄贈された。

t y s (テレビ山口)「スーパー編集局」の取材を受けました

2013年4月19日(金曜日)午前、t y s (テレビ山口)のスーパー編集局の取材を受けました。同番組でべんけい号が取り上げられるとのことで、その一環としての取材でした。

下松市役所の「グリーンプラザ」べんけい号の前で、歴史、イベント、今後の方向等を、そして「ほしらんど」では、先般のスケッチ会表彰展示作品の前で、夫々取材を受けました。

2013年4月26日(金曜日)18:15からの「スーパー編集局」で放映されました。

取材の様子(クリックすると大きな写真でご覧いただけます)



いじもちや、下松べんけい号

県 マツダ財団・県内7件に助成

マツダ財団は二〇一三年(日25)度の事業計画を発表し、青少年健全育成の市民活動への助成は山口、広島県の三十一件八百万円で、周南関係では周南市のこどもつち

や!商店街実行委員会の「こどもつちや!商店街」に五十万円、下松市の下松べんけい号を愛する会に二十万円を支援する。

同財団は科学技術振興

と青少年健全育成の分野で研究助成と事業助成を中心にしたさまざまな活動をしている。今年度の市民活動支援は両県から応募のあった百件から東日本大震災復興支援活動を

含む三十一件を選んだ。このうち山口県は七件で百八十万円。今回を含め同財団の助成実績は千七百三十六件十四億二千九百八十万円になる。

こどもつちや!は周南市の徳山商店街で子どもたちがさまざまな仕事を体験するもの。べんけい号は「SLべんけい号の復元」をテーマにした地域活性化と子育て支援イベントに対するもの。

●下松●

弁慶号を スケッチしよう！

9日・桜桜フェスタ協賛で

下松市役所前広場で保存、展示されているミニSL、下工弁慶号を描こうと2013桜桜（OH！OH！）フェスタに協賛したスケッチ大会「べんけい号をスケッチしよう！」が九日午前十時から市役所南側駐車場で開かれる。

下松べんけい号を愛する会（六反弘道会長）と同フェスタ実行委員会（中村隆征委員長）の主催。年長児以上が対象で、画用紙は同会が提供する。参加賞も用意している。

年少と年中児、高齢者を対象にした塗り絵会もあり、塗り絵の下

絵は市内の各幼稚園、保育園を通じて事前に配布する。クレヨン、絵の具など画材は自由で、弁慶号の実物の色に合わせなくてもいい。

作品はこの日午後三時までに会場を受付で渡すか、十一日までに各園に提出する。

応募作から特別賞五点、佳作十点を並び、四月七日の桜桜フェスタで表彰する。スケッチ大会は、雨天時はほしらんどくたまつで開く。問い合わせは同会の栗田一郎事務局長（0833・43・4250）へ。

掲示板

周南シネクラブ3月例会 8日19時半、9日14時、16時半、19時、周南市銀座2丁目のシネマ・ヌーヴェル。韓国映画「ボエトリー アグネスの詩」（イ・チャンドン監督）を上映。1800円。事務局（08333・74・0987）。

べんけい号をスケッチしよう！ 9日10～15時、下松市大手町3丁目の市役所南側駐車場。雨天時は「ほしらんどくたまつ」で開催。市が保有する蒸気機関車「下松べんけい号」をスケッチする。画板、クレヨンなどは持参。画用紙は受付で配布する。参加賞あり。作品は選考会後、4月7日の桜桜フェスタ内で展示、特別賞などを授与する。下松べんけい号を愛する会の栗田さん（080・1946・5118）。

県民公開講座「脳を知る・守る」変化する脳梗塞（こうそく）の予防法と治療 9日14～16時、周南市孝田町の徳山中央病院（0834・28・4411）。脳梗塞の予防法、治療法、手術、食事法について専門医や管理栄養士らが話す。講演後、質問も受け付ける。先着200人。入場無料。

“106歳”下工 弁慶号に年賀状

●下松●小学生や園児から239通 2月7日まで・全作品を展示



表彰状を受ける森田君(左)

下松市役所のグリーンプラザの格納庫に保管展示されている蒸気機関車の下工弁慶号にあてた「百六歳おめでとう」ペンげいごうへの年賀状」の表彰式が二十日、地域交流センターで開かれ、市内の保育園児、小学生から寄せられた二百三十九通から選ばれた「ペンげいごうがよこさんでいます賞」など特別賞の八人と、佳作のペンげいごう賞の十三人が表彰された。

下工弁慶号は一九〇七年(明治四十)に東京石川島造船所で製造されたと見られ、徳山海軍燃料廠で石炭の輸送などに使われていたが、四年(一九〇九)から下松工業学校(現・下松工高)の実習機材になった。戦後も卒業生の要望で保管され、八一年(昭和八六)には走れるように全面修復された。その後、同校のOB組織の下松工業会を経て市に寄贈された。

この年賀状は市民グループの下松ペンげいごう愛する会(代表 弘道会)が初めて募集したもので、集まった年賀状が二百三十九通に達した。審査員は周南市デザイン会社代表の石友真弓さん、重岡孝信さん、紙芝居創作グループの下松市の鶴本寿美枝さん、愛する会のイベント企画リーダーの大本洋行さん。

表彰式では、森田君が「ペンげいごうがよこさんでいます賞」を受賞し、森田君は「特別賞」を受賞した。表彰式では、森田君が「ペンげいごうがよこさんでいます賞」を受賞し、森田君は「特別賞」を受賞した。

「佳作」横山葵恵、林要法(潮音保)、石川優、山本優峯、大山咲穂(中央保)、再東心優、金子貴暢、西田隆人、柴山陽斗(愛隣幼児学園)、やましたしゆんた、なかむられん(平田保)、藤井力隆、西園野乃花(久保小)。

「同」▽げんきにはしつてゐる賞、児玉琴音(中央保)、▽みまもつてくれ(同)▽たのしいペンげいごう賞、林大樹(愛隣幼児学園)、▽みんなで乗って、ペンげい賞、くらみつき(平田保)、▽よくかきました賞、高水美来(ヤクルト保育園)、▽愛する会賞、松原悠佳(米川小)。



“106歳”下工 弁慶号に年賀状

●下松●

小学生や園児から239通

2月7日まで・全作品を展示

下松市役所のグリーンプラザの格納庫に保管、展示されている蒸気機関車の下工弁慶号にあてた「百六歳!!おめでとう」べんけい「こうへの年賀状」の表彰式が二十日、市地域交流センターで開かれ、市内の保育園児、小学生から寄せられた二百三十九通から選ばれた「べんけい」がよろこんでいます賞」など特別賞の八人と、佳作のべんけい「こう賞」の十三人が表彰された。

下工弁慶号は一九〇七年(M40)に東京石川島造船所で製造されたと見

られ、徳山海軍燃料廠で石炭の輸送などに使われていたが、三四年(S9)から下松工業学校(現・下松工高)の実習機材になった。戦後も卒業生の要望で保管され、八一年(S56)には走れるように全面修復された。その後、同校のOB組織の下松工業会を経て市に寄贈された。

この年賀状は市民グループの下松べんけい号を愛する会(八反弘道会長)が初めて募集したもので、徳山海軍燃料廠で石炭の輸送などに使われていたが、三四年(S9)から下松工業学校(現・下松工高)の実習機材になった。戦後も卒業生の要望で保管され、八一年(S56)には走れるように全面修復された。その後、同校のOB組織の下松工業会を経て市に寄贈された。

審査員は周南市のデザイン会社代表の石丸真弓さん、重岡孝信さん、紙芝居創作グループの下松市の露本寿美枝さん、愛する会のイベント企画リーダーの大本孝行さん。表彰式では大本さんが一人ずつに表彰状を手渡し

た。表彰式には入賞した子どもと父母が訪れ、自分の書いた年賀状を見つけて喜んだり、可愛い作品を楽しそうに見ていた。二十九日までは同センター、そのあと二月七日までスターピアくだまつのロビーに全作品を展示する。入賞者次の通り。

「同」▽げんきにはしつてるで賞||児玉琴音(中央保)▽みまもつてくれでありがとう賞||小林純也(同)▽たのしいべんけい「こう賞」||林大樹(愛隣幼児学園)▽みんなで乗ってべんけい賞||くらみつき(平田保)▽よくかきました賞||富永美来(ヤクルト保育園)▽愛する会賞||松原悠佳(米川小)

「佳作」横山奏恵、林要汰(潮音保)、石川優、山本優幸、大山咲稀(中央保)、再東心優、金子貴暢、西田麗人、柴山陽斗(愛隣幼児学園)やましたしゆんた、なかむられん(平田保)、藤井力隆、西岡野乃花(久保小)

下工弁慶号のスケッチ展 中央保育園児が楽しく描いて



自分の絵を見に来た園児たち

下松

下松市役所のグリーンプラザに展示されている蒸気機関車、下工弁慶号のスケッチ会で中央保育園（伊藤美智子園長）の園児が描いた絵画二十二点が三十日までスターピアくだまつのロビーに展示されている。二十八日は園児たちも訪れ、引き続き十二月一日から十五日まで地域交流センターに展示する。

このスケッチ大会は十月五日に「下工弁慶号の復元」をキーワードにまちづくりに取り組んでいる下松べんけい号を愛する会が呼び掛けたもの。通常は展示場内に置いてあるが、この日は外に引き出して園児二十二人がコンテで描き、車体にさわることでもできて子どもたちは大喜びだった。

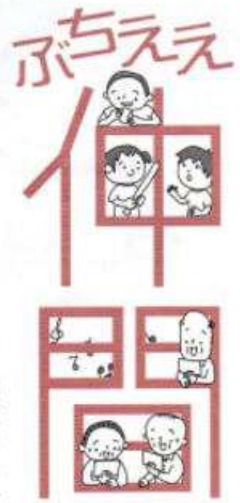
絵は子どもたちが乗って走る弁慶号を描いたものも多く、それぞれ「べんけいごうにのったよ、うれしかったな」「べんけいごう、かつこよかったよ」などと記されている。

伊藤園長は「ふれることもできて感動したのか、力が入った絵ばかりで、最後まで集中して描いていました」と笑顔を見せていた。



くだまつ 下松べんけい号を 愛する会

○場所 ほしらんどくだまつ
(奇数月)、下松工業会館(偶数月)
○連絡先 事務局 栗田さん
☎(43)4250



地域で活動する
グループなどを
紹介します

あなたも一緒に
よみがえれ弁慶号!!

この会は平成22年に、弁慶号PJ準備会議として発足。昨年4月、現在の名前で「リニューアルオープン」しました。毎月第4水曜日(18時〜)が、定例幹事会。半年前から会員募集を始めて、現在120人。幹事12人は、50歳代から80歳代まで。趣味・特技も異なり、まったく多士済々。偶数月には、いつも飲みながら懇親!! 談論風発して、最年長の河野さんのSし製造時代の話や、水井さんの運輸士時代の話など…。

今後は、復元ミニモデル機製作に向けたイベントを通じて「面白きことの少ない時代」に、オモシロイ活動を展開して、人とまちとSし交流に取り組んでいきます。

この記事を読んでいただいたあなた、私たちと一緒に活動しませんか。

●下松●

S.L絵本づくりや 子ども生け花教室に 星の子ネット助成決まる

下松市内の子どもや保護者の支援活動をサポートする星の子ネット（猪本英雄会長）の今年度の応援プロジェクト助成団体が決まり、十九日、市役所で贈呈式を開いて下松べんけい号を愛する会（六反弘道会長）と伝統文化いけ花こども育成会（河村真由美代表）に各五万円を助成した。

下松べんけい号を愛する会は市役所に展示している製造後百三年の蒸気機関車「下工弁慶号」を生かした活動をしており、助成はS.Lの創作手づくり絵本の募集作品の製本、S.Lえほんまつりの開催に使う。

伝統文化いけ花こども育成会はほしらんどくだまつで小中学生に生け花を指導。助成は生け花道具を保管する同館のロッカー使用料や、市民文化展に出品する子どもたちの作品の材料費に使う。

贈呈式に出席した愛する会の栗田一郎事務局長と橋本暢公広報担当は「子どもの夢をはぐくむ取り組みを活発にした

い」▽ともに嵯峨御流教授のいけ花こども育成会の河村代表と会計の国重

加代子さんは「たくさん」を伝えたい」と感謝していた。

授のいけ花こども育成会の子どもに生け花の魅力

を伝えたい」と感謝して



助成を喜ぶ左から国重、河村、栗田、橋本さん

下松べんけい号を愛する会紹介

周南市の徳山駅ビル
三階にある市民活動支
援センターの「市民活
動ギャラリー」で下松
市の下松べんけい号を
愛する会の展示が始ま
り、S.L「下工弁慶号」
の歴史を紹介するパネ
ルや写真などを展示し
ている。三十一日ま
で。



展示されている写真やパネル

同ギャラリーは同セ
ンターに登録している
市民活動グループの活
動などを月ごとに写真
やパネルで紹介してい
るもの。下工弁慶号は
一九〇七年(M40)に
日本で作られた蒸気機
関車。三四年(S9)
に現在の下松工高に払
い下げられて実習教材
として使われたあと正
門脇に展示されていた
のを七九年(S54)に
生徒や職員の手で全面
修復し、八一年(S56)
に公開運転された。以

降、イベントにも貸し
出されるようになり、
九六年(H8)に下松
工業会から下松市に寄
贈された。

会場では弁慶号の雄
姿や歴史などを紹介し
ているほか八月一日か
ら三十一日まで全国公
募する「第一回蒸気機
関車「下松べんけい号」
創作手づくり絵本」(新
周南新聞社など後援)
のチラシも置かれ、絵
本や下松観光絵はがき
の購入もできる。

平日は午前八時半か
ら午後十時まで、土、
日、祝日は午前九時か
ら午後八時まで。会期
中は十七日が休館。同
センターの電話は08
34・33・7700。

周南^山 31日まで・市民活動ギャラリー

NHK「あいたい」(旅番組)の撮影取材
2012年6月21日(水曜日)

6月定例幹事会で、NHKの取材がありました。NHKの番組「あいたい」(43分の旅番組で、年10回、中国地方向けに放送されている)で、今回は「鉄道の裏舞台に迫る」をテーマに、日本の鉄道の起源や日本の鉄道を支えてきた工場町、鉄道を支える人々の営みなどを訪ねるといった企画で、「下松が育てた鉄道マンたち」の中で私たちの「下松べんけい号を愛する会」が訪問されるというものでした。

放送は、平成24年7月13日(金)NHK総合夜8時00分～8時43分
再放送は、平成24年7月14日(土)NHK総合昼10時30分～11時13分(共に中国地方向け)
ナビゲーターで、テレビドラマ「相棒」の鑑識米沢さん(六角精児)がこられたのには、びっくりしました。
(写真をクリックすると大きな写真でご覧いただけます)



六角精児さんは、鉄道模型にもすばらしい知識を持っていらっしゃいました。びっくりしました。



「弁慶号」ミニSL製作へ

下松の「愛する会」が計画

存在をPR、寄付金募る

下松市役所前広場に展示されている蒸気機関車(SL)「下工弁慶号」の保存、活用に取り組み同市のグループが、ミニSLの製作を計画している。弁慶号は現存する国産SLとしては国内2番目に古いとされる。完成すれば各地のイベントで走らせる構想で、近く製作費に充てる寄付金を募る。

(緒方裕明)

製作を計画しているのは、SLが下松にあることを広く「下松けんけい号を愛する会」。日本の近代化を支えたSLをテーマにした絵本コン



下工弁慶号とミニSL製作を計画するメンバーたち

テストを企画して存在をPRして、製作費に充てる募金を始める。

ミニSLの大きさは決めていないが、動力付きで子どもが乗れるようにする考えで、製作費は約200万円と見込んでいます。

弁慶号(長さ4・05m、幅1・53m、高さ2・40m、重さ5・5t)は1907年に東京の石川島造船所(現IH I)が、米国・ボールドウィン小型機関車をモデルに製造。周南市の旧海軍徳山練炭製造所で運搬車として使われた。

その後、34年に下松工業学校(現下松工高)に実習用機材として払い下げられ、「下工弁慶号」と呼ばれるようになった。

96年に下松工高同窓会が下松市に寄贈。2004、07年には、三重県いなべ市の団体に貸し出されて実際に線路を走り、人気を集めた。08年度以降は走行しておらず、老朽化が進み再び走れるように整備するのは難しいという。

同会メンバーで下松工高卒業生の河野知敏さん(81)は「在学中は運動会で走らせていた。弁慶号は青春の思い出。ミニSLが動く姿を見たい」と語る。

絵本コンテストは、中学生以下と高校生以上の2部門で作品を募集。募集期間は8月1〜31日。要項は会のホームページ(<http://benkeigo.org>)からダウンロードできる。

同会事務局長の栗田一郎さん(66)は「ミニSLを全国にアピールし、弁慶号を末永く保存する機運も高めたい」と話す。問い合わせは栗田さん(080・1946・5118)へ。

走れSLL弁慶号

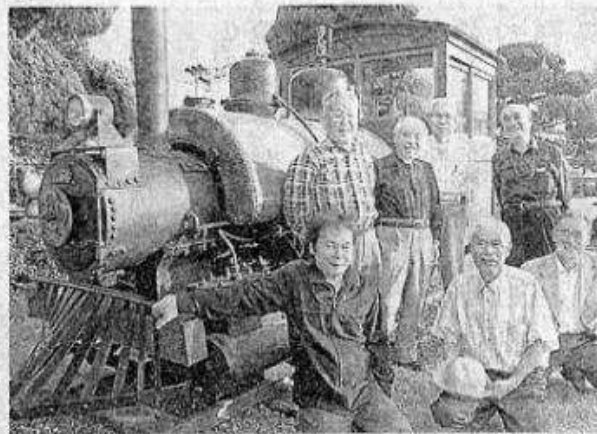
105年前に製造され、下松市役所前に展示されている蒸気機関車（SLL）「下工弁慶号」の復元模型を走らせようと、地元有志が近く製作費の募金を始める。

「愛する会」によると、弁慶号は1907年（明治40）年に「東京右川島造船所」（現IH）で製造された。量産されて現存する最古の国産SLLは大阪市の交通科学博物館にある1903年製造の230形蒸気機関車という。周南市の旧海軍徳山練炭製造所内で貨車をけん引した後、34（昭和9）年に同高の前身

有志 復元模型製作へ 下松市役所前に展示

の下松工業学校で実習機として使われた。運動会では、校庭に敷いたレールの上を生徒が走らせたという。51年に引退したが、81年に生徒らが修理し、同窓生らでつくる社団法人や市が2007年まで県内外の催しに貸し出していた。「貴重な遺産を眠らせておくのはもったいない」。弁慶号の保存・活用のため「愛する会」が昨年4月に発足。覚えている河野知敏

今では県内外の鉄道ファンも加わり会員は約100人に。今月13日にあった第1回総会で、現物の修理は困難とみられることから、10分の1大のミニチュア復元模型（長さ約40センチ、高さ・幅各約20センチ）を作ることにした。構造は本物とほぼ同じ。製作費約300万円は会費で足りない分を募金に頼ることにした。23日には会員7人が復元模型の図面作りのために弁慶号を写真撮影した。在学中、運動会で弁慶号が走る姿を



「近代工業遺産としてまちの顔にしたい」と意気込む「下松べんけい号を愛する会」のメンバーたち

ん(8)は「SLLを見たことない子どもたちもきっと好きになる。下松の名物になってほしい」と話した。【蒲原明佳 8】。募金などの問い合わせは「下松べんけい号を愛する会」(080・1946・5118)。



山口・下松市役所前に展示 地元有志 復元模型製作へ

走れSIL弁慶

105年前に製造され、山口県下松市役所前に展示されている蒸気機関車（SIL）「下松弁慶」の復元模型を走らせようと、地元有志が近く製作費の募金を始める。

有志は、弁慶号をかつて原動機の実習教材として使っていた県立下松工業高の同窓生らでつくる「下松けんけい号を愛する会」16人（反弘道代表7）。「弁慶号は近代工業遺産

街の顔にしたい」と意気込んでいる。「愛する会」による「愛する会」によると、弁慶号は1907（明治40）年に「東京石川島造船所」（現IH川島造船所）（現IH1）で製造された。量産され現存する最古の国産SILは大阪市の交通科学博物館にある1903年製造の230形蒸気機関車という。周南市の旧海軍徳山練炭製造所内で貨車をけん引した後、34（昭和9）年に同高の前身の下松工業学校で実習機として使われた。運動会では、校庭に敷いたレールの上を生徒が走らせたという。

51（昭和26）年に引退したが、81（昭和56）年に生徒らが修理し、同窓生らでつくる社団法人や市が2007（平成19）年まで県内外の催しに貸し出していた。

「貴重な遺産を眠らせたい」として街の顔にしたい」と無気込む「下松けんけい号を愛する会」のメンバーたち

募金などの問い合わせは「下松けんけい号を愛する会」（080・1946・5118）。

【浦原明佳、写真も】

S Lの創作絵本募集へ

● 下松 ●

下松べんけい号を愛する会

シンボルキャラクターも選定

下松市が所有する蒸気機関車、下工弁慶号の保存と活用を目指している下松べんけい号を愛する会（六反弘道会長、百四人）の第一回総会が十三

日、生野屋南の地域交流センター会議室で開かれ、S Lを題材とした創作手づくり絵本コンクール（新周南新聞社など後援）と絵本展の開催など今年度の事業計画を承認した。

下工弁慶号は一九〇七年（M40）の製造。旧海

軍徳山煉炭製造所、旧制下松工業学校（現下松工業高）、同校同窓会の社団法人下松工業会の所有を経て九六年（H8）に市に寄贈された。

同会は二〇一〇年（H22）発足の「走れ！弁慶号プロジェクト準備会議」が前身。昨年四月に同会議を発展的に解消し、下工弁慶号の復元モデル機の製作と公開運転で地域おこしや観光につなげる市民運動を進めていくことを目的に結成さ

れた。S L創作手づくり絵本コンクールは下松手づくり絵本の会（金井道子代表）が協力。題材は下工弁慶号に限らずS L全般にし、中学生以下の子ども、高校生以上の大人の二部門で募集する。作品はオリジナルに限り、民話や昔話を元にした場合は出典を明記する。大きさはA4判、表紙をつけて本の体裁に製本する。募集期間は八月一日から同三十一日まで。賞は

子どもの部、大人の部それぞれに下松市長賞、べんけい号子ども大賞、市教育長賞各一点、佳作十一点。応募作品からシンボルキャラクターを一点選んで表彰し、会の活動で旗、Tシャツ、印刷物などに使う。入選作品は九月にほし

らんどくだまつで開く第一回創作手づくり絵本展で展示する。応募の問い合わせは同会絵本事務局（080・1946・5118）へ。募集要項などは同会ホームページ（<http://benkeigo.org>）にもある。総会で選任された役員次の通り。（敬称略）

局長＝栗田一郎▽監事＝鎌田泰久▽幹事＝徳原英昭、橋本暢公、大木孝行、国弘成文、河野知敏、池田隆志、水井貴士、三田直



総会で事業計画を説明する栗田事務局長